

名古屋大学、 第六回大学施設マネジメント研究会を 開催

名古屋大学は、1月22日に、第六回の「大学施設マネジメント研究会」を（大学施設における清掃管理業務）というテーマで開催した。研究会には中部地方を中心とする国公私立大学・官庁・民間企業等から70名を超える参加者が出席した。

研究会は、冒頭に施設担当の藤井良一理事の挨拶、文部科学省文教施設企画部の秋山明寛参事官付け監理官から施設マネジメントの推進状況やこの研究会の活動に期待するとの来賓挨拶がありました。

引き続き、名古屋大学参事の山口博行「名古屋大学にて実施したESCO事業の過程と成果について」、名古屋大学施設計画推進室の松岡利昌准教授「清掃業務の品質評価―インスペクション」、名古屋大学工学部施設整備推進室講師「清掃実態ベンチマーク調査結果について」の三題の講演が行われた。



国公私立大学・官庁・企業から約70名の参加があった研究会風景

山口参事の講演では、ESCOを何故実施したか、どうして実施出来たか、どのように実施してきたか、契約後どのように運用してきたか、また試行

期間を含め1年間の成果についてと名大ESCOの特徴であるESCO業務と清掃等の建物管理の一括契約のメリット等について報告があった。松岡准教授からは、ファシリテイママネジメントの解説と清掃インスペクションと題し、インスペクションの目的、プロセス、品質評価、報告書、清掃の品質評価、品質管理と改善等について詳しい説明があった。



挨拶する藤井施設設備担当理事

恒川講師からは2007年度に研究会が実施した中部地区の国公私立大学4校の施設運営費ベンチマークの説明と清掃業務について、管理発注体制、延面積に対する清掃面積比率、清掃頻度と品質評価等、今年度調査追加したデータも含めて詳細に調査分析した報告がなされた。今回の3つの講演テーマは、清掃の実態、インスペクション、ベンチマークによる比較と、清掃業務の問題点・改善方向・調査分析と一連の流れに沿って3人の発表者が説明した。

この講演に引き続き、講演に関する質問や意見交換を挟みながら「清掃実態ベンチマーク調査結果からみた課題と展望」というテーマで秋山監理官、講演者3名に名古屋大学施設管理部の加藤施設管理課長を加えた5名によるディスカッションが会場の参加者を巻き込みながら活発に行われた。

名古屋大学では、この大学施設マネジメント研究会を今後も引き続き実施し、参加大学・官庁・企業等とともに、ファシリテイママネジメントに関する情報の共有、理論の習得と実体業務への導入を積極的に推進したいと考えています